

# 教科等研究会（小学校特別活動部会）

## 平成30年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

互いのよさや可能性を発揮し、自主的・実践的に課題解決する特別活動  
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした集団活動の創造を通して～

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	講師	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月 14 日	7名	益城 中央 小学校	8月 7日	益城町 ミナテ ラス	村田 裕紀 教頭	9月 14日	広安西 小学校	小谷 由貴美 教諭	10月 4日	蘇陽 中学校	桂 めぐみ 教諭

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

##### ① 主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながらどのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けていくことが重要となる。

これまで、特別活動は、「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とし、学級活動、児童会活動（生徒会活動）、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育ててきた。よりよい集団活動は、協働性や異質なものを認め合う土壌や、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化の醸成へとつながり、特色ある教育活動の展開を可能としてきた。

特別活動の目標に掲げられている「互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」よりよい集団活動の創造過程は、特別活動で育成する重要な資質・能力である「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」を実践的に身に付けていくための重要な機会となる。

よりよい集団活動をめざして、話し合い活動で合意形成された目標や一人一人に役割分担のある協働活動は、互いのよさや可能性を集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく集団活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

##### ② サブテーマ

##### ア 人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが大切である。

##### イ 社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

##### ウ 自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

③ 研究の視点

視点1：学年毎に身に付ける力を明確にする。

視点2：身に付けたい力を育む、よりよい集団活動を創造する。

(2) 成果と課題 (○成果・▲課題)

○学級目標の実現につなげることを意識した提案理由の作成、司会チームへの事前指導、話合いの流れが分かる板書の工夫、集会活動の決定していることを明確に提示したことにより、クラスのみんなが学級目標「スマイル」になるようにという意識が高まり、共に学び合い、高め合う話合い活動が行われた。

【視点1について】

○司会グループを年度当初に輪番制の当番表を作成し、計画的に司会グループができるように進められている。

○議題にあった積極的な意見を発表できるように、事前に議題についての個人の意見を書く時間を設定したり、出された意見を提示したりという手立てにより、多くの児童が意欲的に発言できていた。また、多くの児童が理由を入れて話すことができていた。

▲さらに、多くの児童が発言できる手立てを工夫しておくことが大切。

【視点2について】

○集会活動について、計画委員会で決めていることを提示されたことや、児童の意見を事前に掲示しておいたことによって、児童がイメージを持って話合い活動に参加していた。そのことにより、出された意見への質問も具体的な内容で質問をし、質問への答えも実際の集会活動をイメージした内容となっており、集会活動に活かせる工夫の内容が深まっていた。

○実際の集会活動「スマイルオリンピック」では、準備の段階から一人一人が役割を果たし、提案者が提案したような、みんなで協力した集会活動を行うことができた。

▲リハーサルをしたため、本番での感動が薄れた部分があった。どこまでリハーサルで確認するか、検討する必要がある。

4 実践事例 (広安西小学校 3年1組 34名 指導者 小谷由貴美教諭)

(1) 授業の概要

<p>児童の実態</p>	<p>①学級目標「スマイル～やるときは、やる！楽しく、きびきび！考えて、助け合う！」について、ほとんどの児童が学級目標を守っていると答えている。また、話合いの時によく発表したり、よく聞いたりしているという児童が多い。</p> <p>②相手の気持ちを考えて行動する姿がよく見られる。友だちのよいところを探し、友だちの成功と一緒に喜ぶ温かい気持ちを持つ児童も多い。一方、相手に気を遣いすぎて言いたいことを言えずに我慢する様子もある。</p> <p>③1学期にも3回「スマイル会議（学級会）」を開き、話合い活動に取り組んでいる。これまでに、学級目標決めやお楽しみ会等の集会活動を開いてきた。</p> <p>④社会参画について高い意識を持っている。人間関係「助け合い」の部分や、自己実現に関する「自己理解」の部分では、課題がある。</p> <p>⑤意図的指名を増やし、全員が発表する機会を与える必要がある。</p>
<p>研究テーマとの関連</p>	<p><b>視点1：3年生で身に付けたい力</b>  <b>「より多くの児童が司会等の役割を果たす」「理由を明確にした分かりやすい発言」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会チームは輪番にし、できるだけ多くの子どもに経験させる。</li> <li>・議題にあった積極的な意見を発表する態度を育てるため、個人カードを利用して自分の考えを持って話合いに臨むようにする。</li> <li>・相手によく伝わるように、理由などを入れて話すことができるよう、司会の子どもや教師で理由を問い直す言葉かけを行いながら話合いを進める。</li> </ul> <p><b>視点2：集会活動で目指す姿</b>  <b>「より多様な集会活動」「協力し合って楽しい集会活動をつくる」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集会活動のプログラム等を事前に準備し、同じイメージを持って話合い活動に参加できるようにする。</li> <li>・必要な係を作り、グループで仕事を受け持ち、グループ内で分担できるようにする。</li> <li>・運営についての係をつくり、リーダーを中心に練習を行い、自発的に集会が進められるよ</li> </ul>

	<p>うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終わった後の片付けを協力して行き、振り返りを必ず行き、自己有用感や達成感を味わうことができるようにする。</li> </ul>
授業者自評	<p>①児童の振り返りカードでは、「話す」に関してはまあまあ、「聞く」や「話し合っ てよかったか」という項目はよい結果であった。有意義な話し合いだったのでは ないか。</p> <p>②5名が発表していなかったが、聞くことはよくできていた。</p> <p>③タイム係の児童も、責任を持ってやっていた。</p>
協議の内容	<p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>Q：議題について、子どもたちに考えを持たせる手立てや前時の様子、オリンピッ クという提案について知りたい。</p> <p>A：1学期に児童から出た意見からの議題。名前は司会グループでつけた。オリン ピックを想像するとイメージが浮かびやすい。朝自習で自分の意見は書いた。</p> <p>Q：決定意見にする基準は、どのようになっていたのか。</p> <p>A：決定にする基準は特に決めていなかった。</p> <p>Q：意見を多く出させるために、事前にどのような手立てを行ったか。</p> <p>A：事前に一人一人の考えを学級会コーナーに掲示した。質問までは考えていない。</p> <p>&lt;グループ協議・発表&gt;</p> <p>【良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の頑張りを認める教師からの振り返りがあり、よかった。</li> <li>○司会グループの役割分担がよかった。</li> <li>○話し合いの仕方が、システム化されていた。明確な役割分担、時間配分やタイマー の使用、児童がイメージを持っていたことがよかった。</li> <li>○子どもたちの話し合いの姿や雰囲気よかった。</li> <li>○多くの児童が発言できたこと、理由をつけた発言や合わせる意見が出たのも、よ かった。</li> </ul> <p>【改善した方がよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>△決定する場合のルールや基準を設定しておいた方がよかった。</li> <li>△全員発表できなかったこと。個別支援の在り方。</li> </ul> <p>&lt;全体協議&gt;</p> <p>①決定意見やありがとう意見の基準について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数や発言力にかたよってしまうならば、クラスの実態に合わせてよいのではない か。あえて、数値化しないことも大切ではないか。</li> <li>・話し合いが始まる前に「今日は〇〇なルールで」と決め、伝えていくことも必要な のではないか。</li> </ul> <p>②話し合い活動について（話型等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話型を決めずに「こんな言い方もあるよ」と例を示すかたちもよい。</li> </ul> <p>③全員発表への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合い間で、子どもとの話しこみをするよよいのではないか。</li> <li>・まず、シートに書いていることを発表させるとよいのではないか。</li> <li>・意図的にシンキングタイムをつくる。（教師の声かけ）</li> <li>・グループで発表し合い、全体で発表させるとよいのではないか。</li> <li>・感想発表の際の意図的指名をするとよいのではないか。</li> </ul>
まとめ 益城中央小 岩下育男 校長先生	<p>①学級会以外でも見通しを持って、学級経営をされている。聞く力を子どもたちが 身につけて、学級会で話し合いを行っている。</p> <p>②話し合いのめあてをもって、絞り込んで話し合いをしていく。</p> <p>③「折り合い」を自分なりにつけていく。「次は、こうしよう。」と子どもたちが 考えて、行動に移していく。オリンピックを行って、子どもたちがやり遂げたと 思えるようにしてほしい。</p> <p>④全員発表に向けては、個別指導が大切になっていく。</p> <p>⑤学級で話し合いをすることが大切。</p>

(2) 学習指導案

<p>目標：互いを尊重し、協力し合って楽しく豊かな学級生活づくりに主体的に参画することで、学級への愛着を深めるとともに、自分のよさに気づくことができる。</p>				
<p>議題：「スマイルオリンピックをしよう！」</p>				
<p>提案理由：みんなで協力してスマイルオリンピックをすることで、2学期も3の1で、「楽しく、きびきび!」「考えて、たすけ合う」なかまとなり、スマイルがいっぱいのクラスにしたいからです。</p>				
過程	学習活動	時間	児童の活動	発問・指示及び教師の支援と評価
見 通 す	1 はじめの言葉 2 役割の紹介 3 学級目標の確認 4 議題と提案理由の確認 5 先生の話 6 めあての確認	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>今から第4回スマイル会議を始めます。</li> <li>今日の司会は～さんです。</li> <li>今日の議題は～です。</li> <li>提案理由の確認です。～さん提案理由をお願いします。</li> <li>先生の話です。</li> <li>今日のめあては～です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画委員で決めていることを再確認して、話し合う部分を明確に捉えるようにする。</li> <li>勝敗よりも楽しむことに重点を置くことを共通理解させる。</li> </ul> <p><b>徹底指導</b> (ポイント)</p> <p>◎「みんなでスマイルになる」という視点を意識させ、提案理由に沿った話し合い活動をさせる。</p>
	<p>考える・伝える・学ぶ</p> <p>7 話し合い 柱「スマイルオリンピックがもっと楽しくなるくふうを考えよう。」</p> <p>計画委員会で決めていること ○本番：9月28日(金)1時間目 ○場所：体育館 ○体育館を4つのエリアに分けて競技を行う。 ○号車の中で、前半組と後半組に分かれる。</p>	30分	<p><b>B基準</b>「集団の一員としての思考・判断・実践」(発表、観察) ○理由を明確にして自分の考えを伝え、友だちの意見を聞くことができる。</p> <p><b>A基準</b>「思考・判断・実践」(発表) ○友だちの意見を聞き、自分の考えと組み合わせたり、よいところを取り入れて新たな考えを生み出したりすることができる。</p> <p><b>B基準に達していない児童への手立て</b> ○机間指導で声かけをし、一人では言えないときはグループで発表をすることやグループトークでは発言できるよう促す。</p> <p>決定した工夫 ・メダル ・景品 ・ビブス ・旗、マーク ・放送、音楽 ・はちまき ・応援団</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>賛成意見や反対意見には必ず理由をつけて発表させる。</li> </ul> <p><b>能動型学習指導</b> (ポイント)</p> <p>◎個人カードを使い、自分の意見を持って参加することで、児童の主体的な話し合い活動ができるようにする。</p>
確 か め る	8 決まったことの発表 9 話し合いの反省 10 先生の話 11 おわりの言葉	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日のスマイル会議では、～が決定しました。力を合わせてがんばりましょう。</li> <li>友だちのがんばっていたところや、自分の感想を発表してください。</li> <li>先生のお話です。</li> <li>これで第4回スマイル会議を終わります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価、相互評価をさせることで、自分や友だちのよいところを見つける視点を育てる。</li> <li>全体的な話し合い活動の振り返りと今後の見通しを話し、児童らが気づいていないよさに気づかせるとともに、実践活動への意欲を高める。</li> </ul>